増加する乳がん

34-1 乳腺内分泌外科（教授）野口昌邦

1. 増加する乳がん

現在、日本では乳がんにかかる女性が増え、乳がんで亡くなる女性も増加しております。乳がんの増加は社会問題であり、毎年、1万2千人以上 の女性が亡くなるような事態は本当に何とかしなければなりません。

2. 乳がんの症状

乳がんの症状として、①乳房の“しこり”を触れる、②乳頭から血液が混じった分泌がある、③乳頭が陥没するなどがありますが、乳房の“しこり”が最も多いのです。お風呂に入っていてたまたま触った乳房に“しこり”があるのに気づき、命拾いをしたと云う話をよく聞きます。これは偶然に発見されたのですが、定期的に乳房を自分で触っておれば、もっと早く乳がんを見つけることができます。これを自己検診といい、乳がんは自分で見つけることができます。しかし、女性が自分で触って発見できる“しこり”の大きさには限界があり、大きな乳房ですと2cm以下の“しこり”を見つけるのは容易でなく、自己検診だけでは必ずしも十分と言えません。

3. 早期発見の重要性

乳がんで亡くなる女性を少なくするため、“しこり”として触れない無症状の乳がんを発見する必要があり、マンモグラフィー検診の必要性が叫ばれています。しかし、乳がんのしこりが小さいとマンモグラフィーでも十分に写らないことも少なくなくありません。年1回、マンモグラフィーと超音波検査を受けられることをお勧めします。また、時間や費用がかかりますが、MRI検査を行うと、より詳細に判ります。

4. 体に優しい乳がん手術

さて、乳がんの手術ですが、乳がんになっても乳房全体を切り取らずに、しこりの部分を切り取る乳房温存術が行われていることはご存知かと思いますが（図1）、乳房温存術はしこりが小さく、乳房がある程度、大きいと良いのですが、しこりが大きい、あるいは乳房が小さいと乳房温存術を行っても

お問い合わせ等は、下記へお願いいたします

金沢医科大学病院 医事課（電話）076-218-8211 直通

920-0293 石川県河北郡内灘町大学 1-1 ijika@kanazawa-med.ac.jp FAX 076-286-8371

乳房が変形してうまく行きません。そのため、最近、乳頭や乳房の皮膚を残して乳腺組織全体を切除し、同時にその中に人工乳房を入れる乳房再建術が増えております。乳房再建術に用いる人工乳房ですが、昨年６月まで保険が適応されず、自費診療となり、入院費用を含めると高額となりましたが、現在、保険適応となっております。但し、人工乳房が保険適応となる病院は限られており、乳腺専門医と形成外科専門医が常勤する病院だけとなります。石川県内では金沢医科大学病院がその数少ない病院の一つであり、乳腺外科医が乳がんを治すため、乳房の目立たない部位に小さな皮膚切開を加えて乳腺組織を切除し（ムービングウインドー手術と云う）、形成外科医が美しい乳房を再建するように努めています（図２）。

図１：乳房温存術を行った右乳房

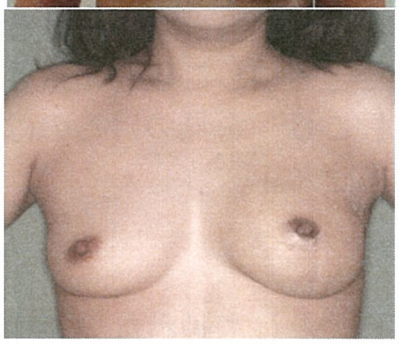

図２：人工乳房で再建を行った左乳房
（野口昌邦著：整容性に優れた新しい乳癌手術-Moving window 法、南江堂、東京、2010 年より引用）

5. 大切な全身療法

乳がんはがん細胞が全身に飛び火しやすく、がん細胞が血管やリンパ管に入り、飛び火すると手術だけでは治すことが難しくなります。乳がんの中で非浸潤がんはほとんど転移しませんが、浸潤がんは大きくなると全身に飛び火します。乳がんを治すためには、手術だけでなく、化学療法、ホルモン療法や抗体療法などの全身療法を受けることが大変、重要になります。免疫療法はその効果が限られています。